

神を求める：包括的な聖書研究資料

この文書は、「神を求める」というテーマで取り上げられた聖書のすべての節と箇所をまとめ、整理したものです。原文の内容とその後に加筆を基に、各項目を節／本文、文脈、解説という構成で分かりやすくまとめています。各セクションは論理的にグループ化されており、原文から始まり、一般的な加筆、そして詩篇 105 篇 4 節を特に重視した箇所で締めくくられています。これにより、神を求めることの忍耐、真摯さ、そして報いを強調する、一貫性のある学習資料となっています。

神を求める

マタイによる福音書 7:7-8

・聖句：「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。求める者はみな受け、探す者は見つけ、たたく者には開かれるからです。」・文脈：イエスの山上の垂訓の一部で、祈りと神の応答の性質について教えています。・解説：イエスは、神だけでなく神の御心も求めることに粘り強く取り組むよう勧めています。ここで約束されているのは、神は積極的に、そして粘り強く神を求める者に応えてくださるということです。

マタイによる福音書 7:13-14

・本文：「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は広く、道は広い。そこを通る者は多い。しかし、命に至る門は狭く、道は細い。それを見つける者は少ない。」・文脈：これらの聖句は、イエスをご自身に従う者たちの生き方について教える山上の垂訓の最後にあります。・解説：・狭い門：イエスは、救い、すなわち神における真の命への道を比喩的に狭いと表現し、それは意図性、規律、そしてしばしば社会規範やより容易で人気のある選択肢に逆らうことを必要とすることを示唆しています。・神を求める：これらの聖句は、神を求めることは人類にとって当然の道ではなく、積極的な選択を必要とすることを示唆しています。この道を選ぶのは困難であり少数派であることに重点が置かれており、真に神を求めることは群衆に従うことではなく、個人的な献身と、時にはあまり人が通らない道を選ぶことであることを強調しています。

マタイによる福音書 6:33

・本文：「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべてあなたがたにも与えられる。」・文脈：これも山上の垂訓の一部で、イエスが物質的な必要について心配することについて語っている箇所からの引用です。・解説：・まず求める：この指示は、信者たちに、食べ物や衣服などの基本的な必要よりも、神の国と神の義を求める霊的な探求を何よりも優先するように教えています。・意味：まず神を求めることで、人生は神の意志に沿い、その結果、神の備えによって必要が満たされることが保証されます。これは、人生における追求において信頼と優先順位の問題です。

使徒行伝 8:26-40

・本文：天使がフィリポに砂漠の道へ行くように指示し、そこでフィリポはイザヤ書を読んでいるエチオピアの宦官に出会う。フィリポは聖書を説明し、宦官は改宗して洗礼を受ける。・文脈：この箇所は、フィリポとエチオピアの宦官の物語を語っており、キリスト教となるものへの異邦人の改宗の初期の例である。・解説：・聖書を通しての探求：宦官は聖書を通して積極的に神を理解しようとしており、神を求めることは研究と探求を伴うことを示している。・導き：フィリポの役割は、神が自分を求める人々を導くために他者を用いることがあることを示している。これは、神を求めることは必ずしも孤独な旅ではなく、時には神の出会いや共同体を伴うことを例証している。

使徒行伝 17:11-12

・本文：「ベレアのユダヤ人はテサロニケのユダヤ人よりも高潔な人柄であった。彼らは熱心にみことばを受け入れ、パウロの言うことが真実かどうかを確かめるために毎日聖書を調べた。その結果、彼らの多くが信じた…」・文脈：パウロとシラスはベレアにおり、会堂で説教をしている。・解説：・高潔な人柄：ベレアの人々は真理を求める勤勉さで称賛されている。彼らはパウロの言葉をただ受け入れたのではなく、聖書と照らし合わせて検証した。・毎日の検証：これは、神の意志と真理を理解するための積極的な日々の追求を反映している。彼らの探求は信仰につながり、神の性質と意図に対する真摯な探求が信仰につながることを示している。

エレミヤ書 29:13

・聖句：「あなたがたはわたしを求め、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしを見いだすであろう。」・文脈：エレミヤはこのメッセージをバビロンの捕囚民に送り、彼らが神に立ち返るならば、エルサレムへの帰還と復興を約束している。・解説：この聖句は、神を見いだすには真摯な努力と心からの献身が必要であることを強調し、真剣に神を求める者には神がそばにいてくださることを約束し

ている。

使徒行伝 17:16-28

・背景：・場所：パウロは、知性、哲学、多神教の崇拝で知られる都市アテネにいました。アテネは、思想が交換され、ストア派やエピクロス派などのさまざまな思想が栄えた文化の中心地でした。・状況：シラスとテモテを待っている間、パウロは、偶像で溢れた街に深く心を痛めていました。彼は会堂でユダヤ人と、市場で哲学者たちと議論を交わしました。・アレオパゴス：パウロは最終的にアレオパゴスに連れて行かれました。アテネの議会が法律、哲学、宗教の問題について話し合うために集まる丘です。これは、彼が街の有力な思想家たちに自分の教えを伝える機会でした。・使徒行伝 17:16-28 の説明：・16-21 節：パウロは、アテネの人々がどれほど宗教的であるかを指摘することから始め、さらには「未知の神」のための祭壇を指摘しています。これは、彼がこの「未知の」神を彼らに紹介するための舞台を整えるものです。・22-23 節：パウロは祭壇を橋渡しとして、彼らが無知ゆえに崇拝している神は、人の手で作られた神殿には住んでおられない世界の創造主であることを説明します。これは彼らの多神教的で偶像崇拝的な慣習に対する批判であり、彼らの探求が的外れであることを示唆しています。・24-25 節：彼は、創造主である神は人間から何も必要としないことを説明し、神々が恩恵や保護のために犠牲や供え物を必要とするという一般的な考え方を覆します。・26-27 節：パウロは、神が諸国と季節を支配していることについて語り、神が人間を創造したのは、人間が神を求めるためであることを示唆しています。探求に関する重要な節は次のとおりです。・27 節：「神がこのようにされたのは、人々が神を求め、もしかしたら手を伸ばして見つけることができるようにするためです。神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。」これは、人間には理解や神とのつながりを求める生来の欲求があり、それが人々を神へと導くように設計されていることを示唆しています。つまり、人々が真摯に求めれば、神は身近な存在であるため、見いだせるということです。・28 節：パウロはギリシャの詩人（「私たちは神によって生き、動き、存在している」「私たちは神の子孫である」）を引用し、ギリシャの哲学者でさえ、この神と人類との近さや親のような関係を直感的に理解していたことを断言しています。これは、より高次の力を求める本能を正当化する一方で、その探求の方向を偶像から真の神へと修正しています。

申命記 4:29

・聖句：「しかし、そこからあなたがたが主なるあなたの神を求めるならば、心を尽くし、魂を尽くして求めるならば、主を見いだすであろう。」・文脈：これは、イスラエル人が約束の地に入る前にモーセが彼らに語った言葉の一部です。彼は、たとえ離散したり困難に直面したりしても、神への忠実さが重要であることを強調しています。・解説：ここでは、心から求めることが強調されています。神は

遠く離れた存在でも、手の届かない存在でもなく、誠実に求めれば見いだされるということを保証しています。

歴代誌上 16:11

・聖句：「主とその力に目を向け、常に主の御顔を求めよ。」・文脈：この聖句は、契約の箱がエルサレムに運ばれた際にダビデが捧げた感謝の詩篇の一部です。・解説：これは、神の臨在と力を絶えず求めることを奨励しており、一度きりの出来事ではなく、継続的な関係を示唆しています。

詩篇 27:8

・聖句：「私の心はあなたについて言います。『主の御顔を求めよ！』主よ、私はあなたの御顔を求めます。」・文脈：ダビデは苦難の中で神の臨在を求める気持ちを表し、神への信頼を示しています。・解説：これは神との個人的な対話を反映しており、内なる声（心）が神の御顔を求めるように促し、親密さと個人的な関係を示しています。

詩篇 105:4

・詩節：「主とその力とを求めよ。絶えずその御顔を求めよ！」・背景：詩篇 105 篇は、アブラハムとの契約からエジプト脱出、そして約束の地への入植に至るまで、イスラエルのために神が行われた偉大な御業を物語る歴史的な詩篇です。この詩篇にはいくつかの目的があります。

1. 感謝と賛美：これは、イスラエルの民に対する神の忠実さと揺るぎない約束に感謝を捧げるための呼びかけです。
2. 歴史的考察：この詩篇は、神の過去の行いを思い起こすことで、神の未来の行いに対する信頼と信仰を促します。それは、神の契約に対する忠誠を思い起こさせる役割を果たします。
3. 指示：それは、新しい世代に彼らの遺産、神の性質、そして神にどのように応答すべきかを教えます。・説明：
4. 主を求めよ：これは、神との関係を積極的に追求するよう促す言葉です。単に時折祈ったり儀式を行ったりする以上の意味を持ち、神をより深く知るための、粘り強く継続的な努力を示唆しています。
5. そして神の力：ここで詩篇作者は、エジプトの十の災いや紅海の分裂など、歴史上の出来事を通して示された神の力について言及しているのかもしれませんが。神の力を求めるということは、

神の保護や、人生における神の力を求めること、あるいは神をあらゆる力と権威の源として認識することを意味するのかもしれませんが。

6. 絶えず神の臨在を求めなさい。これは、神との絶え間ない関係の重要性を強調しています。「絶えず」という言葉は、この探求が一度きりの出来事ではなく、生涯にわたる努力であるべきだということを示唆しています。この聖句が書かれた時代においては、神の臨在は契約の箱、幕屋、そして後に神殿と結び付けられており、そこでは神の臨在が民の中に宿ると信じられていました。しかし、より広い霊的な意味では、これは信者が困窮時や特定の儀式の時だけでなく、常に神との交わりの中にいるよう促すものです。

彼の存在を求めて

マタイによる福音書 13:44-46

・本文：「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。ある人がそれを見つけると、それを再び隠し、喜び勇んで行って、持っているものをすべて売り払い、その畑を買いました。また、天の御国は、良い真珠を探している商人のようなものです。彼は非常に価値のある真珠を見つけると、行って、持っているものをすべて売り払い、それを買いました。」・文脈：これらのたとえ話は、マタイによる福音書 13 章にある一連のたとえ話の一部で、イエスは群衆に話した後、弟子たちに個人的に教え、日常的なたとえ話を用いて天の御国の性質を説明しています。・解説：・貴重な発見：隠された宝と真珠は、神の国の計り知れない価値を表しており、それを得るためにすべてを求め、犠牲にする価値のあるものです。・神を求める：これは、神の国を完全な献身を必要とする「貴重な発見」として描くことで、神を求めることと結びついています。信者には、かけがえのない宝を探すのと同じ熱意で神を追い求めるよう促し、心からの献身というテーマと一致しています。

コリント人への手紙第一 9:24-27

・本文：「あなたがたは知らないのですか。競技では、走る者は皆走りますが、賞を受けるのは一人だけです。ですから、賞を受けるように走りなさい。競技に出場する者は皆、厳しい訓練をします。彼らは朽ちる冠を得るためにそうしますが、私たちは朽ちない冠を得るためにそうするのです。ですから、私は目的もなく走る者のように走らず、空を打つボクサーのように戦いません。いいえ、私は自分の体を打ち叩き、それを服従させます。それは、他の人に福音を宣べ伝えた後、私自身が賞を受ける資格を失うことがないようにするためです。」・文脈：パウロはコリントの教会に手紙を書き、使徒としての自分の立場を弁護し、霊的な訓練を説明するためにイストミア競技会（オリンピックに似て

いる)の運動競技の比喩を用いています。・解説：・規律ある追求：パウロはキリスト教徒の生活を、選手が朽ちる冠のために厳しく訓練するレースやボクシングの試合に例え、信者にはさらに大きな努力で朽ちない報酬を求めるように促しています。・神を求める：これは、聖さと信仰を粘り強く、自己規律をもって追求することで神を求めることを意味します。求めることは受動的なものではなく、永遠の命から失格にならないよう、集中力と忍耐力が必要であることを強調しています。

ヘブライ人への手紙 11:6

・聖句：「信仰がなければ、神を喜ばせることはできません。神に近づく者は、神が存在すること、また、神はご自分を熱心に求める者に報いてくださることを信じなければならぬからです。」・文脈：これはヘブライ人への手紙の「信仰の殿堂」の章からのもので、信仰によって生きた旧約聖書の人物の例を挙げ、迫害に直面していた初期のキリスト教徒を励ましています。・解説：・信仰と探求：この聖句は信仰と神を求めることを直接結びつけ、熱心に神を求める者には報いがあると約束しています。・意味：信仰に根ざした真摯な探求は神を喜ばせ、神の祝福につながり、神に近づくための基本的な原則となることを強調しています。

イザヤ書 55:6

・聖句：「見いだされるうちに主を求めよ。近くにおられるうちに主を呼び求めよ。」・文脈：イザヤ書にある預言的な招きの一部で、霊的に迷いの中にあつたイスラエルに、罪から立ち返り、神の憐れみを受け入れるようにと呼びかけている。・解説：・求めることの緊急性：神を見いだす機会が常にあるとは限らないことを示唆し、即座の行動を促している。・意味：神を求めることは、時宜を得た悔い改めと呼びかけを伴うものであり、速やかに応じる者には神との交わりが約束されている。

詩篇 63:1

・詩：「神よ、あなたは私の神です。私はあなたを切に求めます。私はあなたに渇き、私の魂はあなたを慕い求めます。水のない乾ききった地で。」・文脈：ユダの荒野で、おそらく敵から逃れている間に書かれたダビデの詩篇で、深い個人的な信仰を表しています。・解説：・激しい渇望：ダビデは砂漠での渇きを、魂が神を切実に必要とする比喩として用いています。・神を求める：これは求めることを感情的で、すべてを飲み込むような欲望として描き、困難な時に神の存在の親密さと必要性を強調しています。

箴言 8:17

・聖句：「わたしを愛する者をわたしは愛し、わたしを求める者はわたしを見つける。」（神の属性として擬人化された知恵の言葉。）・文脈：箴言 8 章で、知恵は人類に呼びかけ、創造における自分の役割を説明し、人々に自分に耳を傾けるよう促している。・説明：・相互応答：知恵（しばしば神を畏れることと結びついている）は、熱心に求める者には見いだされ、自分を追い求める者を愛すると約束している。・神を求める：これは、神を求めることの一部として神の知恵を求めることに当てはまり、真剣に探す者には発見が保証される。

歴代誌下 7:14

・聖句：「わたしの名によって呼ばれるわたしの民が、へりくだって祈り、わたしの顔を求め、その悪しき道から立ち返るならば、わたしは天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地を癒そう。」・文脈：神殿奉獻式におけるソロモンの祈りに対する神の応答であり、国家復興の条件を概説している。・解説：・集団的探求：神を求める方法として、謙遜、祈り、悔い改めを求めている。・意味：探求は赦しと癒しにつながり、個人や共同体が神に立ち返る場合にも当てはまる。

アモス書 5:4

・聖句：「主はイスラエルにこう言われる。『わたしを求めよ、そうすれば生きる。』」・文脈：預言者アモスは、イスラエルに不正と偶像崇拜に対する裁きを警告し、神に立ち返るよう促している。・解説：・求めることによる命：神を求めることが生存と真の命に直接結びつき、罪による滅びと対比されている。・示唆：神を求めることは霊的な活力に不可欠であり、警告の中で救いへの道として強調されている。

詩篇 105 篇 4 節の継続的な追求

イザヤ書 40:28-31

・聖句：「知らないのか。聞いたことがないのか。主は永遠の神、地の果てを創造された方。疲れることも、倦むこともなく、その知恵は測り知れない。疲れた者に力を与え、弱い者に力を増し加えられる。若者も疲れ果て、若者もつまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は力を新たにされる。鷲のように翼を広げて舞い上がり、走っても疲れることなく、歩いても弱り果てることはない。」・文脈：捕囚中のイスラエルを慰めるイザヤの預言の一部で、人間の弱さと対比して神の永遠の力を強調している。・解説：・力を求める：これは「主とその力を求めよ」をさらに展開し、神を待ち望む（あるいは

求める)者に再生を約束し、神を尽きることのないエネルギーの源として描いている。・絶え間ない追求：空高く舞い上がり、走り、疲れを知らずに歩くというイメージは、神の不変の性質を通して信頼を築き、神の存在に継続的に頼ることを促します。

詩篇 9:10

・聖句：「あなたの名を知る者はあなたに信頼します。主よ、あなたはあなたを求める者を見捨てないからです。」・文脈：ダビデの詩篇で、神の正義と敵からの保護を賛美し、個人的な救いについて考察しています。・解説：・求めることによる信頼：神を求めることは、神の名（性質）を知ることと、神の忠実さを経験することにつながり、絶え間ない追求が揺るぎない支えにつながることを保証します。・臨在に基づく構築：これは、神が求める者のそばにいて、必要な時に決して彼らを見捨てないことを約束しているので、絶えず神の顔を求めるという考えを強化します。

詩篇 34:10

・聖句：「若い獅子は欠乏と飢えに苦しむが、主を求める者は良いものに事欠かない。」・文脈：危険から逃れるために狂気を装った後に書かれたダビデの別の詩篇で、神の救いを祝い、他の人々に神の恵みを味わうように勧めている。・解説：・求めることによる備え：神の力を求めることに基づいて、この聖句は、勤勉に求める者は必需品に事欠かないことを約束し、人間や動物の苦闘と神の供給を対比させている。・継続的な関係：豊かさへの道として継続的な探求を奨励し、イスラエルの歴史全体を通しての神の備えを思い起こさせることで、詩篇 105 のような歴史的考察と結びついている。

詩篇 24:6

・聖句：「これは、神を求める者、ヤコブの神の御顔を求める者の世代である。」・文脈：神殿への行列で使用された可能性のある典礼詩篇で、誰が神の聖なる丘に登ることができるかを述べ、清さと神の臨在への上昇を強調している。・解説：・世代的探求：詩篇 105 篇の歴史的記述にあるように、ヤコブ（イスラエル）との契約に結びついた、神の御顔を求める祝福された共同体を特定することで、「絶えず神の臨在を求める」という表現と呼応している。・上昇における力：この聖句は、求めることが神の聖なる場所に立つことにつながり、そこで神の力と栄光に出会うことを示唆しており、集団的で永続的な探求を促している。

歴代誌下 15:2

・聖句：「そして彼はアサに会いに行き、アサに言った。『アサよ、ユダとベニヤミンの民よ、私の言うことを聞きなさい。あなたがたが主と共にいる限り、主はあなたがたと共におられる。あなたがたが主を求めるならば、主はあなたがたに見いだされるであろう。しかし、あなたがたが主を捨てるならば、主はあなたがたを捨てるであろう。』」・文脈：預言者アザリヤは、ユダの改革の時期にアサ王に語りかけ、敵に対する勝利の後、国家の復興と忠実さを促した。・解説：・相互の臨在：これは、絶えず求めることで神の近さと力が保証され、捨てることで損失につながることを強調することで、神の臨在を求めることに基づいている。・歴史的関連性：詩篇 105 篇の神の行いの振り返りのように、契約への忠誠を思い出すことを求め、国家と個人の祝福を積極的に追求することを奨励している。

詩篇 42:1-2

・詩：「鹿が流れの水を慕い求めるように、わたしの魂はあなたを慕い求めます、神よ。わたしの魂は神を、生ける神を渴望します。いつになったらわたしは神の御前に出て、現れることができるのでしょうか。」・文脈：コラの子らの詩篇で、おそらく神殿礼拝の務めから逃れて、流刑や苦難の中で神の臨在を渴望する気持ちを表している。・解説：・臨在への渴望：これは、切実な渇きの比喩を通して「絶えず神の臨在を求めよ」ということを鮮やかに示しており、求めることは生来の、継続的な魂の必要として描かれている。・切望の中の力：涙と抑圧の中で、救いを思い起こさせる歴史的な詩篇と同様に、神の御顔を待ち望むことで希望を見出すことによって力を求めることに基づいている。

学習ガイドの提案

- ・探求すべきテーマ：忍耐（例：マタイ 7:7-8）、真心（例：エレミヤ 29:13）、報い（例：ヘブライ 11:6）、そして絶え間ない追求（例：詩篇 105:4 および関連）。
- ・応用問題：日常生活の中で神を求めるとはどのようなことでしょうか？心から神を求めることを妨げる障壁は何でしょうか？そして、それらをどのように克服できるでしょうか？
- ・相互参照表：

テーマ	重要な聖句	繋がり
粘り強さ	マタイによる福音書 7:7-8、歴代誌上 16:11	継続的なノックと探索を奨励する。

テーマ	重要な聖句	繋がり
真心を込めて	エレミヤ書 29 章 13 節、申命記 4 章 29 節	全身全霊を傾けて探求することを 強調する。
報酬／支給	マタイによる福音書 6:33、詩篇 34:10	約束は果たされ、ニーズは満たさ れ、求める者には事欠かない。
規律	コリント人への手紙第一 9:24-27、イザヤ書 40:28-31	永遠の強さを求めることは、訓練 に例えられる。
緊急性／親密さ	イザヤ書 55 章 6 節、詩篇 63 篇 1 節	即座に、渴望するように追跡せよ という呼びかけ。

この文書は、個人学習、グループディスカッション、または教育にご利用いただけます。さらに詳しい説明や参考文献が必要な場合は、聖書索引を参照して、「求める」または「追い求める」に関する他の聖句をご確認ください。